

第6回新しい学校づくり三好市・東みよし町地域協議会議事録

平成20年11月19日(水)

午後6時30分から午後9時まで

辻高等学校 研修会館

【協議題】 「新しい学校の教育内容等について」

【協議】

「設置学科・コースについて」の説明

委員

それでは、只今の事務局の説明を参考にいたしまして、これから協議に入りたいと思います。新しく設置する学科・コースについてご意見を賜りたいと思います。

委員

普通科のコースについてですが、新しい高校の総合文理と教養実践コースの内容は、4年制大学への進学を目標としています。この2コースは池田高校に持っていき、健康福祉と情報ビジネスコースは、三好高校の2つの科を併せた専門教育とし、人材育成をしてはどうでしょうか。

こういう職業高校と普通科の充実を図れば、地域の発展につながるのではないかと思います。

委員

普通科は池田高校に持って行って、新しい高校は専門教育にしたかどうかというご意見でした。今までの方向や流れとは違うご意見ですけれども、新しい高校の教育内容はまだ固まっていません。

協議を深めていく中で、当初からの「案のまま」ということではなく、自由な発想で議論することも大切だと思います。

委員

私の念願と言いますか、前から申し上げておりますように、三好地域の子どもはやはり三好地域の高等学校でしっかり教育して、そして社会に送り出していく、こういうことを三好地域の一人として、しっかり考えていきたいと思います。

その中で、大学進学をめざす三好地域の子どもが、他の地域の高校に行かなくてもいいように、地域にある池田高校の進学体制を充実していくことも考えてほしいと思います。また、池田高校はクラス数が減ってきていますので、新しい学科を作るなどの取り組みが大事ではないかと思います。

委員

介護職についてですが、よく新聞とかに載っている「3Kの仕事」ということで、介護職を希望する人が非常に少ないということを現場でひしひしと感じていますが、三好地域は高齢者が多く、どちらかというと働き手が少なく大変な所があります。

高校卒業後に進学する介護福祉士の養成学校は、結構定員割れしているという話がありますけれど、高校の3年間とか専門学校で介護福祉士の資格が取れるのであれば値打ちがあると思います。

来年の4月に介護保険法が改正されるので、また色々要件も変わるような話も聞いていますが、資格を取れる新しい高校というのは魅力があると思いますので、ご検討いただければありがたいと思います。

委員

確かに介護関係の人材は不足のようです。

介護の人手が足りないから外国から雇っているが、それには日本の若者が福祉関係にあまり就職したがないことがあるようです。ただ、ご意見がありましたように、教育さえしっかりしておれば人材も輩出できるんだらうと思います。外国人に頼っている訳にもいかないし、それは日本としてもきちんと育てていかなければいけない問題だらうと思います。

委員

今の日本は、「食の安全・安心」、「食糧自給率」、そして「農林水産業の後継者育成の問題」など数々の課題があります。新しい学校はこれらの課題を踏まえ、三好地域でどのような人材を育成するのか考える必要があります。

委員

新しい学校が何の憂いもなくスタートできるために、しっかり議論をしようじゃないかということですが、大賛成です。新しい学校というのが本当にこの地域の中で生き残っていけるのか、それがこの地域の子どもたちのためになる学校かということを経験する必要があります。

昨年（平成26年）の第1回目のスタートの時から1年半経つ訳ですけれども、県内の状況はかなり変わってきています。去年立てた案が、今年になったらもう色褪せてしまっているものがたくさんあります。

私たちが新しい学校を作ろうというのは、平成何年になるのか分かりませんが、仮に平成26～27年とすると、平成18年に計画したものが10年近く経って初めてその学校がスタートする。その時に、一昨年・昨年に考えた案がうまくいくのだろうかということが非常に心配であり、慎重にしっかりと議論をしていくべきではないかと思っています。

この地域協議会が平成18年度の方針を受けてやっていることは充分承知をしていますが、委員さん

が議論を深めていこうという中で、特に私が申し上げたいのは、統計にも出ておりますが就職する子どもがたくさんいるということです。平成19年度を見てみますと、3校合わせて100人を超える子どもたちが高卒で就職をしています。

この地域の高校として、高校教育の中でどれだけその子どもたちのために教育を展開できるのかということが、これから大きな問題になるのではないかと思います。そういう視点を、しっかりと新しい学校が持っていなければいけないと思います。

委員

確認ですけれども、我々はこの全県的な高校再編のあり方という2年前の平成18年に作った原案を基にこの協議会を開いている訳です。

去年から議論を始めましたが、年度内の3月までには答申できないでしょうから、その次の年度に入っていく。そこで答申が出せたとして、最短でもこれから5～6年かかるということになります。そうすると、前にも数字が出ましたように生徒数がその頃には更に減っているという状況になります。

また、社会の変動が非常に激しい中、親や子どもたちの意識もどんどん変わっていく。そんな中で、現実問題として先のことは分からない部分は多いですけれども、分かる部分だけはきちんと踏まえていかないと、答申を出して5年後には通用しない状態で開校してしまうことになりかねません。ですから、我々はできる限りの議論を尽くして、この計画が後に「子どもたちのために良い学校を作ってくれたな、良い内容にしてくれたな」という評価につながるよう努力をしたいと思います。

委員

高校の再編にあたっては、その地域にどのような高校が必要なのかじっくり考えていかなければならないと思います。

グローバルな時代の中で、普通科一辺倒の発想ではいけないと思います。普通科の主たる進路目標は大学進学と思いますが、地域では高校卒業後に就職する人も必要であるし、地域を支えていける人材が必要です。

新渡戸稲造など、教育者として歴史に名を残している偉人の多くは農学校の出身です。彼らのように農家の発想で、自然の中に見いだす豊かさが無いといけません。この豊かな発想で、地域にはどのような高校が必要なのか考えなければいけないと思います。

委員

新しい高校はどうあるべきか考える時、「今人気がないから」と安易に流れるべきではないと思います。

日本の将来を見据え、1つの信念を通しておかないと国の存続も危うくなると思います。それは、

食の安全・安心やバイオ燃料に起因するトウモロコシの価格高騰等，食を中心とした農業問題がクローズアップされ，食料のほとんどを輸入に頼っている日本は，飢えの時代がくるのではと危惧されます。このため，農林漁業の人材を育成する体制をしっかりと考えておかなければいけないと思います。

この人材は，地元で活力を与えてくれるという期待もあるので，新しい学校にはその役割を果たせるような学校にしたいと思います。

今日の協議では，「しっかりした職業人を育てる」という意見が多々出されております。

委員

新しい学校に，どれくらいの子どもたちをここで学ばせるのかということが決まっていたり，何か案があれば教えていただきたいと思うんですが。

委員

募集定員については，その時の状況にならないと決まりませんが，第1回の地域協議会で，平成19年度から30年度の中学3年生の生徒数の予測というのが配られています。

平成19年度が三好地域で515名，平成20年度が全部で467名です。そして，徐々に減り，平成26年を境に急激に減ってきますが，だいたいそういう推移であるということです。

今のところ募集定員は，池田が1学年200名，辻が135名，三好が65名です。

委員

新しい学校の各科やコースは，どれくらいの規模で募集するのか，また健康福祉コースや農業科は重点的に多く募集するとか，案はありますか。

委員

昨年，地域協議会をスタートさせたときに，三好地域の生徒数が減っていく中，高校再編を生徒数から議論すると，協議が十分に進みません。そこで，新しい学校はどのような風な学校が良いのか，イメージから議論を始めました。しかし，現実問題として三好地域全体で生徒数がどんどん減少し，5～6年後はさらに激減してきます。こうした中，もう一度議論を深めて，しっかりやらないといけないということです。

委員

この前の日曜日に，井川町で「なでしこ祭り」という文化祭がありました。ここで辻高校の福祉コースの生徒が手話サークルということで，手話で色々な歌をしっかりと歌っていましたが，何か自信を持って，その道に向かって一生懸命に取り組んでいるという感じを受けました。これは非常に大事

なことだと思います。そして、県西の方で資格を取れたりするのは、ここだけではないのかと思い、大変力強く感じました。

しかし、平成25年からはヘルパーの資格はなくなり、介護福祉士に一本化されるという見通しだということですが、新しい高校は、資格取得を目指せるなど、子どもたちが自信を持っていける学校にすべきだと思いますので、しっかりと議論をしていただきたいと思います。

委員

平成34～35年になると生徒数は、200名そこそこの人数になるということは分かった上でこの会に参加していますし、この協議会は、辻高校と三好高校を再編して1校にするということで話が進んでいたと思いますし、設置される学科・コースは前回の協議会でおおよそ決まったと思っていました。

しかし、今の段階で、池田高校も入れた3校で考えないといけないという方向が出つつあります。

池田高校も入れて協議しないといけないという委員の皆さんの意見が集約できるのであればいいのですが、この地域協議会は2校再編が前提だと思うので、大きく進展というか、方向性が変わったなというような受け取り方をしてよしいんでしょうか。

委員

池田高校のことは別であり、三好高校と辻高校の再編統合の中身をどうするかというのが、私たちに付託されたことです。

しかし、三好地域の普通科教育を考える中で、池田高校の普通科も関連してきますので、池田高校の状況も話が出ています。従って我々の地域協議会は、三好と辻を再編統合して、新しい学校を作るということですが、それに付随して池田高校の問題にも触れる必要があるということです。それは、付帯事項で付け加えようかというようなことを前回確認した訳です。

それと現段階では、学科やコースの内容が決まったという訳ではないと思います。また、総合選択制についても検討する必要があるということで、まだ議論の途中であったと思います。だから、今日の段階でかなり今までと違った方向の話が出ていますが、これは大事なことだと私は思っています。

社会情勢が急激に変化中です。動き始めると止められないということではなく、もっとフレキシブルに考えて協議する必要があると思います。

委員

あるテレビ番組で、女の子が調理の四国大会で優勝して、全国大会に行くというニュースが流れていました。この子は中学校の時には調理の方向へ行くという希望は持っていなかったのではないかと思います。辻高校に入学してから、調理の道へ行きました。

前回、15歳で将来を決めるとするのは、厳しいものがあるという話をさせていただきました。しか

し、子どもたちは進路を決めないといけない。そういう意味で、ここに出してもらっている普通科コース制と農業科の学科制というのはありがたいと思います。中学生が進路を決める段階において、選択肢が多いほど良いということも以前の会の際にお話しさせていただきましたと思います。

三好の子は三好の高校で育てようという話が全体の中にあったと思いますが、その中で現在中学生が進路選択をする時に、普通科志向が強いということがあります。

再編する時に、辻の普通科をなくした場合、三好地域の普通科を志望する子はみんな池田高校へ行くだろうか。また、池田高校の定員がどれだけになるのか、穴吹高校や脇町高校に流れてしまうのではないかという不安もあります。その中で、辻の普通科を残しておいて、普通科志向が強い子を伸ばしていこうという話もあったように思います。一方で、仮に普通科を全部池田高校1本にするということを考えると、新しい高校の定員がすごく減ってしまいます。

6つの学科・コースを新しい高校で活かしていこうと思ったら、1学級30人とすると180人、そうすると平成30年には300人ちょっとの生徒数なので、池高の定員はどうなるのか。そういう不安があります。もしかしたら多すぎるのではないかという不安も、前回の協議会から持っています。

定員というのは、毎年県教委の方で決めていますから、ここで決めることは出来ませんが、ある程度の目安をもって決めていかないと、今言ったような問題が起こってくるのではないかと思います。

委員

新しい学校の、設置学科・コースを考えると、現在の両校の現状を知っておく必要があります。進学や就職の状況を教えていただけますか。

「辻高校・三好高校の進路状況について」の説明

委員

生徒数の減少から、三好高校の募集定員は平成14年度入学生は110名でしたが、今年度の入学生は65名になっています。

学校というのは、ある程度の生徒数がないと様々な弊害が出て弱くなるので、新しい学校はある程度の規模が必要であると進路の現状を見て思います。

委員

進路の現状にも関係しますが、中学生が高校進学を決めるときに、将来の進路を決めかねている子どももいます。

辻高校が普通科になってコース制を導入したときに好評を得ています。それは、2年生からコース制になるため、1年間じっくり将来の進路を考えられるという利点があるからだと思います。また、

福祉コースの子どもたちの進路についてですが、全員がヘルパーの方向に向かって仕事に就くのではなく、福祉の教育を受ける中で、福祉マインドを身に付けながら様々な進路に向かっていきます。その中で手話などは、異なる職に就いても活用できると同時に子ども自身の自信にもなると思います。

進路希望で将来介護福祉士になりたいと希望する子どもがたくさんいたら、福祉科といった特化した専門教育も必要と思いますが、現状を踏まえますと、普通科で幅広く様々な進路に対応できるコース制の高校は必要だと思います。

委員

介護福祉士やその他にもたくさんの資格がありますが、新しい学科やコースを考える時に、資格取得にどれくらい期間がかかるのか教えてください。例えば、介護福祉士の資格を取るなら専門学科でないと、普通科のコース制では対応できないといったことがあると思います。

「資格取得について」の説明

委員

ホームヘルパーや介護福祉士の資格について説明がありましたが、今まで福祉のコースについては、ホームヘルパーの資格が取れることを前提に協議してきましたが、この資格自体が介護福祉士の資格に一本化されそうだということですが、実際どのようなようになっていくのか、資格取得するにはどれくらいの授業時数を取っておく必要があるのか、そして高校で何単位取得して、専門学校で残り何単位取ればいいのか、こういったことの情報を得て検討する必要があると思います。

委員

高校で取れる資格については、「こうすれば取れる仕組みになる」といった情報を基に今後検討していきたいと思います。

現在、高校を出て福祉関係の資格取得のために専門学校に進学していく子どもはどれくらいいるのでしょうか。

事務局

辻高校については、昨年度卒業した福祉コースの生徒は23名ですが、福祉関係に就職した者は4名で、他は福祉とか看護とか、そういう関連した短大や専門学校に進んでいると思います。

“福祉マインド”というか、そこで触発されて更に勉強したり、更に上の資格が欲しいとかいうことはあると思います。

委員

よく生徒の多様性ということが言われますが、子どもたちは多様であり、保護者と共に進路とか資格取得とか導いてやるのが教育だと思います。

今一度、「教育とは何か」というところから考える必要を感じます。

委員

まさにその通りだと思います。子どもたちは多様であり、様々な興味であるとか、そういったものを持っている子どもたちを学校が引き受けて、職業観や勤労観を養い、進路に繋げていけるよう教師も子どもも努力しております。

委員

今回は今までと違った視点での議論がありました。非常に大事なことだろうと思います。

それと、次にもう1つのテーマとして予定している総合選択制について説明をお願いしたいと思いますが、これも設置学科とか、そういう教育内容の検討の1つにもなりますので、こちらの方にも触れておきたいと思います。それで、次回に今日の議論を、より深めていきたいと思っております。

総合選択制について、ご説明いただけますか。

「総合選択制について」の説明

委員

総合選択制について、ちょっと捉えにくいかとは思いますが、今「これだけの授業が取れますよ」ということでしたが、あれもこれもと言うと、本当に取らなくてはいけない本来の自分のコースの教科・科目が取れなくなるということが起こり得ますので、選択教科・科目の制限も出てくるんだろうと思います。

理論上は可能ですが、現実はいくらぐらいの選択になりますということもあると思いますので、現在の状況が分かる資料を用意していただいて、次回に掘り下げたいと思います。

また、総合選択制は、生徒が授業を受けるのに移動を伴うので、校地をどうするのかといったことに繋がってきます。総合選択制についての理解は深めますが、後の校地をどうするかという段階で、最終的な詰めをしていくということで、確認しておきます。

委員

今の三好高校と辻高校で、科によって希望数が偏った場合には、どういう風になっているのでしょうか。学年によって偏りというのはないんですか。

委員

辻高校では、1年生から「このコースはこういう特性があります」というような説明をして、11月の末頃に2年生のコースを決定していきます。それまでに十分、本人や保護者とじっくり話し合っ
てコースを分けていきます。

事務局

クラスによりまして、多少の人数の多い少ないはあります。

委員

農業科の方もそうです。

「農業」という中に入ってくる時に、林業を中心とするものと農業を中心とするものと、大きく選
んだ中でコースに分かれますので、どうしてもコースや学年によって人数にバラツキがあります。

しかし、大幅なバラツキがある場合には、第一希望・第二希望・第三希望まで取っていますので、
そこで面接をしながら決めていきます。ですから当然コースによって希望が多いコースと、少ないコ
ースはできませんが、第二希望まででいけるように調整しています。

また、今の三好高校は大学科の農業科として入学し、後にコースに分かれますが、新しい学校は2
つの科で募集します。その中にコースがあり、自由に選んでいくという形になります。

委員

学科は入学したら変わらないということですね。その代わり、その学科での生徒は最初から確保で
きるということと、そういう専門学科の生徒を育成するためには、学科として募集した方が人材確保
ができるということの説明でした。

委員

池田高校ですが、辻高校と三好高校のことだけではなくて、本校の実態を知っておいていただけれ
ばありがたいと思います。

それは、第1回の地域協議会で申し上げましたが、三好地域の子どもたちは三好の高校で教育すべ
きであるというのが前提です。また、第3回の時に申し上げましたが、生徒の募集定員が減ってくる
と、教員も減ってきます。今の1年生ですけれども、6クラスから5クラスに減っています。5クラ
スが3年間続けば、教員は単純に考えたら6人減ります。

また、平成27年度から3年間4クラスが続けば、平成19年度から数えていきますと12人減っていく。
さらに平成34年度、3クラスが3年間続きますと18人減る。そういう風に教員がどんどん減っていき
ます。

そういう中で、部活動の指導者も減ってくるので、部活動の削減や休部ということも起こってきます。先日も特活課長に部活動を削減していくスケジュールを立てなさいと言いました。それで11月の全校集会で、特活課長から生徒に対して「池田高校はどんどん教員が減っていているから、部活動の休部ということも来年度からは出てくるということを感じておいてください」というようなことを言いました。

教員が減っていくということは、例えば平成20年度におきましては各学年、英・数・国、2名ずつおります。そして、物理・化学・生物・地学・日本史・世界史・地理、それぞれ担当がおります。

そして、音楽・美術・書道、今年の書道は既に非常勤になっております。そういう専門の教員がいなくなります。

学校というのは、勉強だけではなく部活動も含めて考えていかなければいけません。学校がどんどん縮小化されていくと、居場所のない生徒がどんどん出てくる可能性も大いにあります。

池田高校は昨年度、大阪大学の法学部、それから岡山大学の歯学部、名古屋工業大学、横浜国立大学、神戸大学等々難関校に入っている。つまり、三好地域の大学進学希望者は、いわゆる他郡市に行かなくても、そういう難関校という所に入れるような教育が維持できている。

しかし、それが1学年5クラスから4クラスになっていくと、新しい学科ということも考えていかなければいけないし、教員の数もどんどん減ってくるということは、いかんともしがたい問題です。

そのあたりも、辻高校・三好高校の統合だけではなくて、三好地域全体の教育を活性化するためには、どういった方法が一番良いのかということをお考えいただきたいということを切に思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

委員

3校のことも考えなければいけないことは分かりますが、この協議会は2校の再編統合の協議が大前提ですから、今はまず2校について話し合う会であり、池高も交えた話は新たな会を立ち上げなければいけないと思ひます。

委員

新たな協議会を立ち上げる必要性も、また出てくる可能性もありますが、ただ、この協議会で辻高と三好高だけのことで終始していたら弊害が起こってくるということを申し上げたいんです。

委員

新しい高校は、地元をしっかり根付くような子が育っていかねばいけないのではないかとことを基本的に思っております。

また、この協議会は2校再編統合が主ですが、三好地域全体のことも考えながら進める必要がある

と思います。池高については、進学希望者が10月段階で定員を39名越えているようですが、しっかり分析していただければ良いのではないかと思います。

しかし、学校の先生の努力だけではなく、制度的なものにある程度踏み込んでいくことも考えないといけないのではないかと思います。例えば、地域協議会の答申ですか、そういう文書が出るとすれば、その中のどこかに「付帯事項」というようなことを明記しておく必要があるのではないかと思います。どうぞ、ご理解を頂きたいと思います。

池田高校はしっかりやっているんですが、なお今後しっかりお願いしたいと思います。

なお、県教委の方でも制度の上で何か考えられるものはないのでしょうか。できたら良い知恵をお貸してください。

委員

今、委員さんが言われたのは、一番最初の時にいるんな方から意見が出て、そういう状況の中でやらなければいけないということは、皆さん方は十分ご承知ではないかなと思います。

それで、先ほど委員さんが言われましたような状況の中で、辻と三好高校をどうするかということで、そこまで前回煮つめてきたのではないかと思います。それは私もそういう風に受け止めております。

今日、健康福祉コースの介護福祉士の資格の問題が持ち上がっていたようですけれども、私が実際に福祉施設で体験をしまして感じていることは、先ほど辻高校の福祉コースを出た者が次の専門学校に進んで、そして資格を取っているという説明を聞き、「ああ良かったな」と思ったんです。

実際、現場におきまして、高卒の18歳の人たちが介護の実際の仕事をするというのは、なかなか難しいと思います。介護施設で3年間の実務を終えた者に受験資格ができ、受験をして介護福祉士の資格を得ていますが不合格になる者も多く、段々難しくなってきました。

それほど介護の方もレベルが上がってきました。しかし、実際には希望者が減ったり、辞めているというのも現状です。そういう中で、高校の時にそういう意識をしっかりと持って、次の専門学校へ進んで、それでやろうという人が実際に就職していけば、本当にこれからの高齢者社会の中では良いのではないかと思います。

そういう高校、そういうコースを置いた高校、そして資格云々ではなく、次へのステップで理解をしていけるような高校、そういう高校が出来たら良いなと思っております。

委員

先ほどからの協議の中で、今日の設置学科の問題、総合選択制の問題、それから資料の「その他」の項目にある池田高校との関連の問題にも触れていただきました。

まだまだ議論をしなければいけない不明な部分、もう少しお互いの認識を摺り合わせる部分が、今

回は大いに出てきたように思います。そんなことで、次回の中身づくりで、更に深めていきたいと思っております。

以上で今日の協議を終わりたいと思います。

ありがとうございました。